

日々の祈り

2021年8月9日(月)~14日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・この世界に、まことの平和があるように。一人一人が、隣人を愛する者、平和の使者となることができるように。
- ・コロナウイルスの感染拡大によって苦しみや困難を覚えている人々に、癒しと慰めがあるように。
- ・教会の兄弟姉妹の信仰生活が守られるように。

9日(月)

ルカによる福音書 16章 29節

しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。神さまは、わたしたちにずっと語りかけておられます。聖書を通して、礼拝を通して、恵みの御業を通して、いつも救いへ、神さまの御許へと招いて下さっています。今すぐにでもわたしたちは、悔い改めをもって、恵みを求めて、救いを求めて、御言葉に耳を傾けたいのです。そこには、すべての慰めとまことの平安が備えられています。

10日(火)

詩編 107編 20~21節

主は御言葉を遣わして彼らを癒し／破滅から彼らを救い出された。主に感謝せよ。主は慈しみ深く／人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。

主なる神さまは、御言葉を遣わしてわたしたちを癒し、御言葉によって破滅からわたしたちを救い出されます。「光あれ」と言われれば、闇に光を存在させしめる、神さまの力ある御言葉です。この主なる神さまの御言葉にこそ、わたしたちの救いがあります。

11日(水)

詩編 119 編 16 節

わたしはあなたの掟を楽しみとし／御言葉を決して忘れません。

「掟」と言われると、わたしたちはなにか、守らなければならない、わたしたちの行動を制限する、窮屈なものと考えているかも知れません。しかし、神さまの「掟」に従うこと、神さまの「御言葉」に従うことは、決して窮屈な、我慢を強いられるようなことではありません。詩編の詩人は、掟を守ることを、「わたしは楽しみとする」と語ります。神さまの掟とは、神さまから注がれた愛を受け取ることであり、与えられた恵みの中で、神さまと隣人と共に、生き活きと生きることだからです。この掟に従うところには、窮屈さではなく、まことの自由と楽しさがあります。

12日(木)

詩編 2 編 11 節

畏れ敬って、主に仕え／おののきつつ、喜び躍れ。

おののくことと、喜び躍ることは、相反することのように思えます。おののくとは、恐怖で体が震えるような思いをすることです。喜び躍るとは、心の内を抑えきれずに思わず躍り出すほど喜ぶということです。しかし、わたしたちが主なる神さまに仕えるとはそのようなことなのです。全地の造り主、支配者であり、正義を貫かれる神さまの御前に、罪あるわたしたちはおののく他ありません。しかし、わたしたちが神さまを「父」と呼ぶことをゆるして下さり、わたしたちを愛する子として受け入れて下さる。ここに躍りあがるほどの喜びがあります。

13日(金)

ヨブ記 35 章 7 節

あなたが正しくあっても／それで神に何かを与えることになり／神があなたの手から／何かを受け取ることになるだろうか。

次の主日礼拝の御言葉です。わたしたちが、神さまに何か良いものを差し出したり、与えたりすることは出来ません。すべては神さまのもので、神さまはすべてを支配なさるお方で、神さまは何でもお出来になるからです。しかし、神さまは、わたしたちが心からささげる献げ物を、そして神さまに忠実に従って歩むことを、心から喜び、受け入れて下さいます。

14日(土)

ルカによる福音書 / 17 章 10 節

あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。

明日の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは主の僕です。主の命によって贖われ、買い取られ、主のものとされた僕です。僕が主人に仕えるのは、対価を得るためや、ほめられるためではありません。ただ、主のものとして、主に仕えるだけ。主の思いに従って、しなければならぬことをするだけなのです。しかしわたしたちは、自分の主人が、僕のために食事の席を用意して給仕して下さり、僕のために命を捨てることも惜しまないような、憐れみ深い、愛情に満ちた主人であることを知っています。そうであればなおさら、わたしたちは喜んで、ただ主に仕えるのです。